令 和 元 年 度　学 校 独 自 研 究

常総市立三妻小学校

1　研究主題　　言葉にこだわり，伝え合う力を高める国語科学習指導の在り方
～相手意識をもった言語活動を通して～

2　主題設定の理由

平成 30 年度の研究主題を「言葉を大切にし，自分の思いを豊かに表現できる国語学習指導の工夫」と設定し，具体的な授業づくり及び国語科における環境整備に取り組んだ。その結果，交流場面の工夫や構成メモの活用等による指導の工夫によって，児童が自分の言葉で表現する姿が見られるようになった一方で言葉に着目，吟味して自分の考えを再構成することに課題が残った。

これからの国語科の目標は「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」（本校は「伝え合う力」と定義）であり，そのためには「言葉による見方・考え方を働かせること」と「言語活動を通すこと」の二つが必要不可欠である。そこで，本校は「言葉にこだわり，伝え合う力を高める国語科学習指導の在り方～相手意識をもった言語活動を通して～」と研究主題を設定した。

3　基本的な考え方

（1）　言葉にこだわるとは

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説では，「言葉による見方・考え方を働かせるとは，児童が学習の中で，対象と言葉，言葉と言葉との関係を，言葉の意味，働き，使い方等に着目して捉えたり問い直したりして，言葉への自覚を高めること」と述べられており，本校では目指す児童の姿を「①言葉に着目する姿　②言葉を吟味・検討する姿　③言葉への自覚を高める姿」とし，これら３つの姿を統合して「言葉にこだわる」と捉えた。

（2）　相手意識をもった言語活動とは

これまでも単元の中に取り入れてきた言語活動（パンフレット，ポスターセッション等）を見直し，自分の考えを相手・他者に向けて表明・伝達することが相手意識をもった言語活動（討論，報告等）であるとした。具体的な手立ては次の通りである。

＜相手意識をもった言語活動の手立て＞
❶言葉に着目させる視点の明確化　❷三妻思考の技の活用（学年毎に作成）
❸三妻話合いの技の活用（ハンドサインと組み合わせて）　❹対話活動を交えた振り返りの工夫

4　研究の実践

（1）　第１学年の授業

単元名『のりもののことをしらべて，よんでわかる「のりものカード」をつくろう』
教材名「いろいろなふね」

①　ＴＴを活用した言葉（やく目・つくり・できること）の着目のさせ方の工夫

②　ペアでの音読・交流

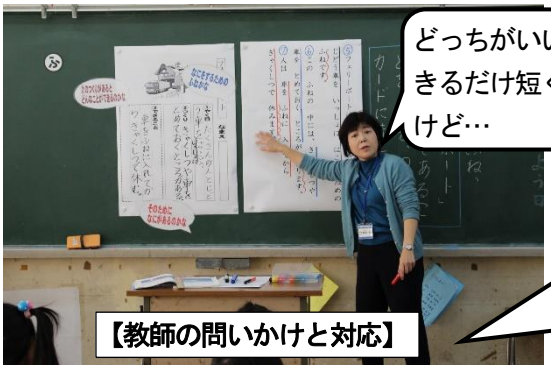
【ペアでの交流場面】

＜ペア活動のポイント
気軽・短時間に考えの交流や確認をする。【①２人が話す②沈黙をつくらない】というルール。児童は教科書に引いた線を基に交流していた。

【ＴＴの活用による言葉の着目】

前時の「きゃくせん」のカードから繰り返される文型に着目する児童の姿が見られた。

③　言葉の吟味・検討



【教師の問いかけと対応】

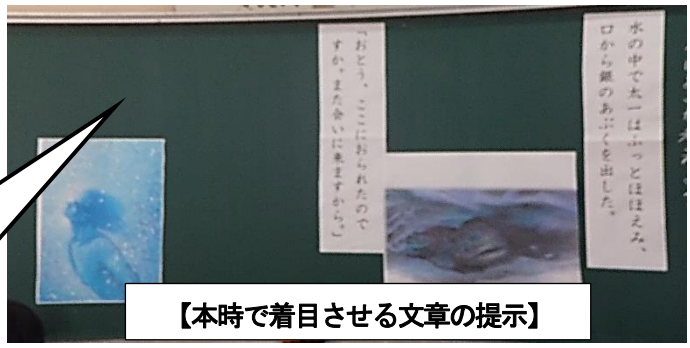
どっちがいいかな？できるだけ短くしたんだけど…

教師の問いかけに対して，児童は「こっちの方が短い」「前の時間で…」等，根拠を明確にして発言していた。講師の先生からは「決して派手ではないかもしれないが，あのような子どもとの言葉のやりとりが低学年では大切」と称賛された場面だった。

（2）　第６学年の授業
単元名『感動の中心をとらえよう』
教材名「海の命」

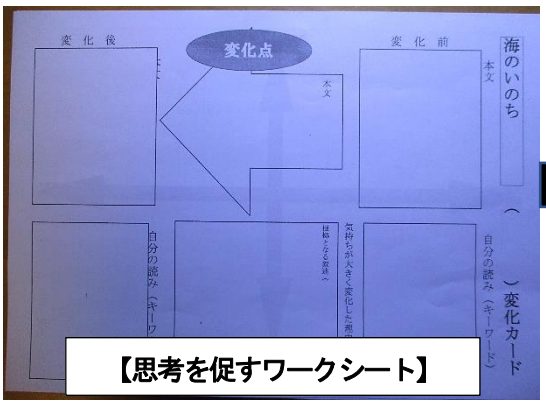
① 本時で働かせる言葉による見方の焦点化

前時までに検討して残った２つの文章を提示。児童のノートやワークシートには自分の考えが書かれていた。本時で考えさせるための「山場」「根拠」「色彩表現」「名前の違い」を再度確認してから授業が動き出した。

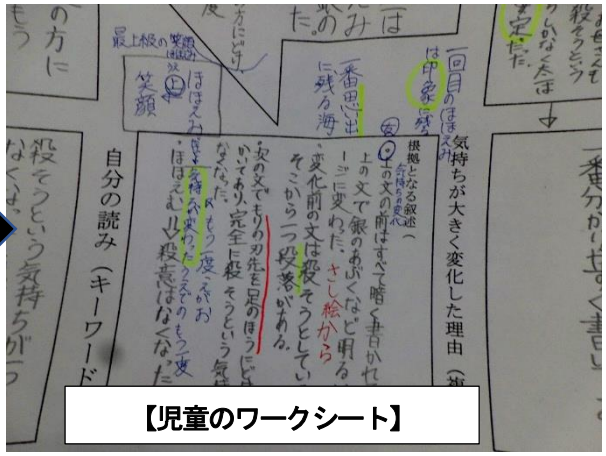


【本時で着目させる文章の提示】

② 思考を促すワークシートの活用



【思考を促すワークシート】



【児童のワークシート】

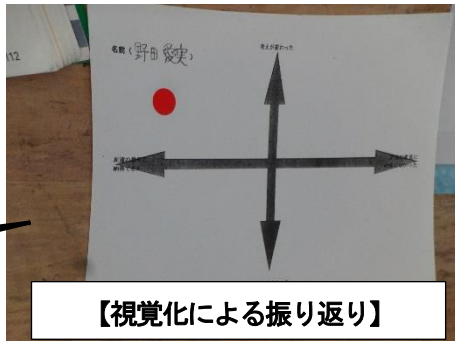
中心人物の考えが変化する前後を視覚的に捉えられるワークシートを活用した。言葉を視覚的にも捉えられるようにするために，その後の３人組・全体での交流場面で，言葉を吟味・検討する場を設定した。また，今後，「思考ツール」という研究を進めていく上で貴重な実践となった。

③ ３人組の利点を生かした話合い

【３人組の話合い】

３人のうち，１人は客観的に話を聞くことができる。ペアの話合いよりも深まりが増す。

④ 視覚化による振り返り


【視覚化による振り返り】

十字型にシールで振り返りを行う。時間ごとの変容を実感できる。

5　成果と課題

(1)　成果

①　言葉に着目させる視点を活用することで，児童は言葉による見方を捉え，吟味・検討する活動につなげる上で有効であった。

②　読みの変化点を表すワークシート及びグループでの話合い活動から，思考を可視化できるツールの有効性が明らかとなった。

③　本時のねらいに迫る言葉を明確化することで，児童が言葉にこだわることができた。

(2)　課題

①　児童の思考を可視化し，対話・交流ができる思考ツールの研修をさらに進める。

②　単元のつながり・まとまりを構造化した指導計画及び指導案の作成についての研修を深める。

③　目的意識を明確にした話合い活動を行うとともに，話合い活動の形態及び場づくりの工夫を行っていく。

④　「わ・が・と・も」による振り返りを昨年度から実践しているが，さらに対話形式，単元ごとの振り返りを行っていく。